

見出し1(大見出し、節)

見出し2(中見出し、項)

◎見出し3(小見出し、目)

段落冒頭の字下げは、このように手動でお願いします。改行は、(改行)このように自動で取り除かれます。

通常の本文**強調(ボールド)**通常の本文*斜体(イタリック)*通常の本文インラインのコード通常の本文^{注1}通常の本文 **Enter** (←キーボードフォント) **赤文字**通常の本文_{はかむら}外村(←ルビ)。

引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です引用です引用です引用です
引用です引用です

■コラム見出し

コラム本文コラム本文コラム本文コラム本文コラム本文
コラム本文コラム本文コラム本文コラム本文コラム本文
コラム本文

■■コラム小見出し

コラム内でも**強調**などが使えます。

箇条書き(リスト)いろいろ

◎通常の箇条書き

- 通常の箇条書き
- 通常の箇条書き
- 通常の箇条書き
- 通常の箇条書き
- 通常の箇条書き

◎連番箇条書き(黒丸数字、連番の場合のデフォルト)

- ①連番箇条書き(黒丸数字)
- ②連番箇条書き(黒丸数字)
- ③連番箇条書き(黒丸数字)
- ④連番箇条書き(黒丸数字)
- ⑤連番箇条書き(黒丸数字)

◎連番箇条書き(白丸数字、重複などの事情で黒丸では不都合なとき)

- ①連番箇条書き(白丸数字)
- ②連番箇条書き(白丸数字)
- ③連番箇条書き(白丸数字)
- ④連番箇条書き(白丸数字)
- ⑤連番箇条書き(白丸数字)

◎連番箇条書き(黒四角数字)

- ❶連番箇条書き(黒四角数字)
- ❷連番箇条書き(黒四角数字)
- ❸連番箇条書き(黒四角数字)
- ❹連番箇条書き(黒四角数字)
- ❺連番箇条書き(黒四角数字)

◎連番箇条書き(アルファベット)

- ㉶連番箇条書き(アルファベット)
- ㉷連番箇条書き(アルファベット)
- ㉸連番箇条書き(アルファベット)
- ㉹連番箇条書き(アルファベット)
- ㉺連番箇条書き(アルファベット)

◎本文やリスト中での番号

箇条書き以外の本文やリスト中で番号を書きたいときは、**①**、**②**、**①**、**②**、**❶**、**❷**、**㉶**、**㉷**のように書いてください。

❶hogehogeをします

❷fugafugaと**❶**の結果を足し合わせます

リスト1.1**①**ではアラートを出しています。**②**でもアラートを出しています。(a1) エスケープできます。

注1 注釈ですよ。

●リスト1.1 キャプション(コードのタイトル)

```
function hoge() {  
  alert(foo); ... ①  
  alert(bar); ... ②  
  alert(c1); // ¥でエスケープできます  
}
```

ソースコード

◎本文埋め込みコード

本文中で流れてコードを掲載するときに使用します。

```
function foo(a) { // コード内強調  
  alert(a); こんな風にコメントがつけられます  
}
```

見出し的にも使えます

```
function bar(b) {  
  alert(b);  
}
```

このように、上下に本文が入ります。

本文から一連の流れで読んでもらうことができますが、コードがページをまたぐ可能性がございます。

◎リスト(名前付きのコード)★要キャプション★

リストは、本文とは別ボックス(別なパーツ)として紙面の端に寄せてレイアウトしますので、コードがページをまたぐことはございません(1ページを超えるコードはまたぎますけど)。

以下、このリストや後述する図や表など、別ボックスもの場合のご注意点です。

- キャプション(タイトル)が必須です
- 「リスト1.1をご覧ください」「○○のコードを示します(リスト1.1)」「○○を表1.1にまとめました」みたいな感じで、本文から番号で参照してください
- 初出時のみリスト1.1のように太字にします(2度目以降は通常の本文です)

(このドキュメントでは、別ボックスものは見出しに★要キャプション★と書いています)

●リスト1.1 キャプション(コードのタイトル)

```
function foo(a) { // コード内強調  
  alert(a); こんな風にコメントがつけられます  
}
```

見出し的にも使えます

```
function bar(b) {  
  alert(b);  
}
```

コマンドの実行結果

コマンドは、「!!! cmd」と付けていただく必要があります。ただで、基本的には上記ソースコードと同じです。

ただし、呼称が「リスト」ではなく「図」となります。また、コマンド行の行頭にはプロンプトを付けてください。

◎本文埋め込みコマンド

```
$ command foo // コマンド内強調  
bar こんな風にコメントがつけられます
```

見出し的にも使えます

```
function bar(b) {  
  alert(b);  
}
```

◎図(名前付きのコマンド)★要キャプション★

●図1.1 キャプション(コマンドのタイトル)

```
$ command foo // コマンド内強調  
bar こんな風にコメントがつけられます
```

見出し的にも使えます

```
function bar(b) {  
  alert(b);  
}
```

図★要キャプション★

スクリーンショットなど、別ファイルを参照する図です。

●図1.1 キャプション(図のタイトル)

figure/sample.png

表★要キャプション★

●表1.1 キャプション(表のタイトル)

表タイトル1	表タイトル2
内容1	内容2
内容1	内容2

その他の記号

→←↑↓

⇔

≥ ≤

キーボードフォント

A ~ Z

a ~ z

0 ~ 9

F1 ~ F12

← ↓ ↑ →

End

Alt

Ctrl Ctrl

Shift

Tab

Esc

Delete

Insert

PAUSE

Break

Home

Back
Space

Space

PgUp PgDn

Enter

!

#

\$

%

&

'

()

[]

=

-

^

~

!

+

*

:

:

,

.

/

?

_

@

`

"